

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：22012

学校名：新陽小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果

分析

体力・運動能力
＜男子＞

○札幌市の平均を上回った種目
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、
20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール

○札幌市の平均を下回った種目
なし

・本校は多くの項目全国・札幌市平均を上回っていた。この結果を継続・向上させていくためにも、日常的に運動に親しむ機会を増やし、継続的に体を動かす習慣づくりに取り組んでいく必要がある。

体力・運動能力
＜女子＞

○札幌市の平均を上回った種目
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、
20mシャトルラン

○札幌市の平均を下回った種目
50m走、立ち幅跳び、ソフトボール

・柔軟性や筋力を中心に平均を上回る種目が見られた。一方、女子の投げる力や瞬発的な走る力が課題として挙げられる。これらは経験不足や、力強い蹴り出しの動きに課題があると考えられる。特定の種目練習に留まらず、遊びの中に『投げる』『跳ぶ』動きを組み込む工夫が必要である。

運動・スポーツへの意識、
運動習慣

・「運動が好き」と回答する割合
男子 96.3% 女子 87.5%
・「体育が楽しい」と回答する割合
男子 96.3% 女子 93.7

・体育の授業に進んで参加していると回答する割合
男子 90% 女子 96.7%
・運動することに興味や関心があると回答する割合
男子 94.5% 女子 81.3%

・体育の授業が楽しいと感じている人ほど運動に対して肯定的な考えをもっている人が多かった。そのため、日頃の授業から、「楽しい！できた！」と感じられる授業づくりをしていく必要がある。

三つの取組

①体育・保健体育等の
授業の充実

②授業以外で子どもの
運動機会を創出する取組

③子どもが自ら
健康の保持増進を図る取組

具体的な
取組

○「できた！わかった！楽しい！」を実感できる授業づくり

- ・専科指導の専門性を生かし、習熟度別学習や児童が自ら練習方法を選択できる「選択制学習」の場面を導入
- ・課題に応じた練習方法の提示や、資料動画を活用した主体的に学ぶことのできる授業づくり
- ・ICTを活用した、「動画を用いたフォームの客観的分析」や「デジタル化した学習カードによる変容の可視化」等、「自分の課題や成長を実感できる支援」

○日常的に体を動かすことができる環境

- ・縄跳びウィークを中心に、日常的に縄跳びに取り組める場の設定
- ・遊びや掲示物を通して、多様な動きを経験できる環境づくり
- ・休み時間の体育館やグラウンドにおける活動場所の工夫と充実
- ・異学年交流を通した、体を動かす遊びの充実
- ・委員会活動による「なわとびチャレンジ」などの運動機会の企画・実施
- ・年間を通した、体育の学習内容と関連した運動週間の実施

○自分事として実践できる指導

- ・学年の発達段階や保健室利用状況などを加味した学年別保健・食指導の設定
- ・全校一斉の養護教諭と栄養教諭による食と保健の合同指導
- ・パートナー校で取組の交流や共通指導を行い、小中の連携を図る
- ・健康診断の事前・事後指導で自分の身体を知る
- ・シャボテンログを通して、自分の心と体の状態を知り、健康的な生活への意識を高める
- ・調査結果をもとにした「体育の楽しさや体を動かすことの必要性」を学校だより等で発信し、「家庭での運動（放課後や休日）」を推奨する

家庭・地域との
連携・協働

- ・ゲストティーチャーを招いての指導や講演、プロスポーツの技に触れる。
- ・地域のスポーツクラブのインストラクターにボランティアとして指導補助を依頼する。
- ・中学校の部活動を見学することで、運動への興味関心を高める。